

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和5年3月13日

事業所名 こどもくらぶキッズナー

	チェック項目	はい	ほぼ はい	いい え	工夫している点	課題や改善すべき点を特定した 改善内訳又は改善目標
環境・ 体制 整備	1 利用者が指導員等とスペースとの関係で適切である	8			運動教室はスペースが狭いためベランダや体育館を利用工夫しています。	
	2 職員の配置数は適切である	6	2		適切に配置の中で業務分担ができて業務改善が図られています。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の対応が適切にされている	7	1		日頃から階段昇り降りの際は安全面で手すりを握りながら歩行するように声掛けを行い、対応しております。	
業務 改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加している	6	2		業務開始-終了時に5分程度をとり、業務改善-振り返り-目標設定-振り返り-業務改善のサイクルをとり、また、月一で全職員が会議に参加出来るようにしています。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	1		ホームページに掲載し、全職員へ通知し、また会議の中で保護者の意向を共有し、業務改善につなげるようしています。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	3		ホームページに掲載して公開しておりますが、今後も継続して公開いたします。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	4			事業所によって、第三者委員会を設けていますが、今後全事業所に設置して業務改善につなげたいと思います。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	1		できる限り、研修を平等に受ける機会を確保しています。	
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8			日頃より、保護者様と保護者様などから情報収集し計画を作成しています。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	3		専門書やインターネットの新しい情報を取り入れるように努めています。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	7	1		チームで活動プログラムを決めるように心がけております。	
適切な 支援の 提供	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8			専門講師を招いたりして、プログラムを工夫しております。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	2		特に長期休暇に関しては準備時間が長いことで課題に対してのアプローチが難しくなると感じています。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7	1		集団活動を中心としながら個々のペースを大事にして進めるように計画しております。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	1		リーダー職員を中心とし、打ち合わせをして確認しております。	
	16 支援終了後は、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点を共有している	7	1		報告書がある際には行うようにしていますが、報告書がなくても振り返りを行うように努めています。	
	17 日々の支援に際しては、記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	1		職員それぞれの視点で記録し、話し合いを行うための時間を確保しております。	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8			職員会議や日々のミーティングの中で個別の支援内容をその都度行っており、また、職員一人ひとりの初期の成長や課題を共有しています。	
	19 ガイドラインの原則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	5	3		ガイドラインを全職員が理解していることを今後の課題の一つとして職員間で取り組んでまいります。	
	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	8			全職員の意見をまとめるために職員が参加しています。また、会議の後に職員から意見や情報の共有を行って参加しています。	
	関係 機関 や 保護 者 との 連携	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の把握)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7	1		保護者様の公文書を送りたり、学校HPをみて確認したりしています。
22 医師のケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		3	4	1		現在医療的ケアが必要な利用者様はおりませんが、該当する利用者様の発生時には、必要に応じて体制を整えていくには課題だと感じています。
23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		4	4		利用の前に担当職員会議を開催したり、必要に応じて情報共有を図っています。	
24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供している		3	4	1		対象となる児童がいなかったため情報提供はできておりませんが、必要に応じて対応していきたいです。
25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		3	4	1		研修内容を理解しながら、オンライン研修なども参加して参加しています。
26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		3	3	2		コロナが一時的に落ちた際に、児童館のイベントに参加したり、地域の図書館を利用しています。
27 (地域自立支援協議会等へ積極的に参加している)		5	2	1		市区町村の協議会などへ参加できる機会はないかと考えています。
28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている		8				職員会議や送迎の際にその日の出来事や課題を共有しています。
29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		6	2			対応力向上を図るために保護者様のお話も聞いて、事業所での対応事例や、研修のご案内をしています。
保護 者 への 説明 責任 等		30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8			
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8				いつでも相談を受けることができるように体制を整えています。
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	2	3		コロナで保護者会をすることができませんでしたが、落ちついた際に保護者会を開催していきたいと考えています。
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8				送迎時や電話などで、保護者様の小さな思いなどを積極的に、迅速に前向きに行うようにしています。
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	1			月の行事予定などを毎月配付したりしています。
	35 個人情報に十分注意している	8				外部講師を呼んで事業所内研修を実施しています。
	36 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8				その子の特性を理解して接するように努めています。
	37 事業所の行事は地域住民を招待する等地域に関わった事業運営を図っている	2	4	2		コロナによって地域住民を招待することができませんでしたが、地域の祭りやイベントに子どもも参加しているなど、おかげで地域に関わることが出来るようになりました。
	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8				全職員が迅速に行動出来るように、マニュアル化をしっかりと進めし行動出来るように課題として取り組んでいきたいです。
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8				火災訓練などに参加しました。今後も継続して取り組んでいきます。
非常 時 等 の 対 応	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8				外部研修へ参加することはもちろんのこと、内部研修も行っていきます。
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うのかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	3			身体拘束を必要とする児童はいないために組織として全職員が理解するに達していない状況にあります。そのため、今後研修等をおこなって理解を促していきたいと考えています。
	42 食アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされている	7	1			指示書による対象となる児童はいませんが、食料アレルギーに関しては、医師から保護者様からの情報提供を全職員で共有して、ミスのないよう留意している事が今後の課題と感じています。
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8				小さなヒヤリでも作成して共有しております。気づきの機会を増やすようにしています。